

## 近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

還義異聞

漂客章太夫聞見記

全

70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80

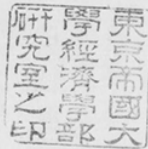
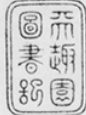
新刊 80  
5/0



俄羅斯異聞卷之一

目錄

|    |    |    |    |
|----|----|----|----|
| 風土 | 女帝 | 王城 | 新都 |
| 王屋 | 移居 | 市肆 | 屋室 |
| 家財 | 士庶 | 奴隸 | 弃兒 |
| 浴湯 | 園花 | 牧畜 | 儲獸 |
| 鮮肉 | 裂丸 | 爵祿 | 賜給 |
| 車馬 | 出朝 | 縣令 | 方侯 |
| 異民 | 穿官 | 寄宿 | 伶人 |
| 舞曲 | 相見 | 面見 | 理髮 |





女壯 再嫁 庶疾 齒短

已上



俄羅斯異聞目録 癸

俄羅斯異聞卷之一

風土

魯西亞國ハ唐土ノ地續ニシテ唐土 日本ヨリ  
ハ西北ノ間ニ當リ直路ニシテ大數一万余里ニ  
在リ四時ノ順行モ唐土 日本ト大ニ異リ 日  
本ノ冬至ヨリ十二日十三日ニシテ 日本ノ冬  
至ノ日ニ當リ此日ノ頃ニハ凡 日本ノ二時  
余ニテ日ハ出タリト雖モ地ヲ離レスニテ 日  
本ノ四ツ時ト覺ヘシ頃ニ漸ク地ヲ離レテ極ニ  
過テ日輪又地ニ没ス仍テ日輪ヲ見ル莫クニ朝

毛罕ク明ハシ日ハ入テモ暗カラス莫ニ暗ク成  
ル時則 日本ノ深雪ナリ夏至ニ至リテモ暑ハ  
ナシ 日本ノニ三月位ノ暖気ナルヨリ此國ノ  
地方ハ都テ高山モナク多クハ平地ニテ地ノ廣  
キニ合ヒテハ大河モナシ是ハ高山ナキ故ニ氷  
海及ヒ夜國ヘ近シ天ノ日ヲ見ルニ日ハ南ニ落  
テ過ク夏至ノ日ニ 日本ノ冬至ノ頃ノ日ト相  
同カルベシ是ノ故ニ山野モ耕作ナシカタク民  
ノ食物モ五穀ヲ作り食フ莫能ハス是故ニ牛羊  
豕鶏ノ類ヲ沃山ニ作りテ食シテ五穀ニ當ルニ

尤ニ麥ヲ用シ凡 日本ノ米ヲ用ルカ如ニ非ス  
是カタメニ國王ヨリ國民ニ給分ヲ賜亨エノ演  
王臣タラカルハナシ茲ニ於テ人々皆身ヲ太切  
ニ持テ國王ヲ主人ト思ヒ以國王ノ教ニ從カル  
ハナシ國王モ亦此寒苦艱難ノ國ニ生レシ民ト  
テ悉ク憐ミ賜フ故ニ上下ノ情誠ニ敬服セリ國  
王没シテモ其婦人ニテ跡ヲ立テ自若トシテ國  
民ヲ撫育ス是皆王ノ為ニ今日ノ命ヲ保ツ故ニ  
是ヲ 日本ノ吏ニ譬シハ諸侯ノ家臣ノ如ク在  
其衷心ナルモノニテ一同ニ叛徒ス是ノ故ニ存

外ノ罪ヲ起ス莫ナシ人々皆其給フ處ノ方ヲ量  
リテ家ヲ治ム人各自力ノ計畧ニテハ及ハサル  
莫ヲシル故ニ賊ヲ成サス人ヲ欺ス我カ王ヨリ  
賜フ所ヲ出情シテ勤ル國風ニ是ヲタトヒ山ニ  
住ム獸ヤ野ニ食ス鳥ヲ聚テ家内ニ畜スルカ如  
シ相狎テカナラス物ヲ害セス是皆大害大雪ナ  
ル故ニ人各其方限ヲシル是天ノ然ラシムル所  
ニ敢テ他ノ外國ノ企及フ所ニテラス是ニナ古  
ノ聖人ノ教ニ近シ

### 女帝

鄂羅斯ノ女主ハ前王ノ妃ナリ國俗王卒シテ妃  
存スレハ継立其女主卒シモシリハ老シテ後始  
テ太子ニ或ハ王子男ニナケレハ女子ヲ立ト雖  
モ婿ナシ養ヒ王子絶レハ王室三家アリ継統ノ  
備タリ三家ヲナリシキニ伝祿秩有テ宗邑ナリ  
官政ニアツカラス其國時トシテ女王絶サレハ  
ハレハ女壽ナルニ似タリ又王臣下ニ娶ラスナ  
ラウベリトマルセウ伝爵ニ至ル王臣三負アリ  
此家同ナルモノアレハ娶ル然ラサレハ外國ニ  
迎フ例アリ下ニ掲シ又ナリシキニ娶ラス都

# 朱書

子牟者ニ至ルマテ近親ノ婚ヲユルサス案ニ三  
 家ヲ嫌フハ同姓ヲサクルニ似タリ女主「子メツ」  
 國ノ子ニ太子ノ妃又「子メツ」國ヨリ迎フ女主ノ  
 名「エーカテリナアレキセウ」歳六十三西暦九  
 ナニ幸日本寛政四年太子「バートルヘート」ヨリ  
 ニ「ハ」幸ヲ算下飾此  
 「ツカ」三十九太子ノ妃「マリヤヒヨウト」此太子  
 子ノ子「アレクサント」ハ「ルリツカ」此子英  
 利國ヘ養子ニ行ノ約アルヨシ王ヲ「イニペラト  
 ルト」稱ス是天子ト云変ナリ女主ヲ「オスタレニ  
 ヤ」太子ヲ「ウエリコイキニヤ」子妃ヲ「ヘリコイキ

ニヤ「ヂ」ト稱ス女主出ル日唯廟参幸ニ一度天主  
 ヲ拜スル又一度此二度ニシテ前驅二十人老  
 臣二人乗ノ兩傍ニ肯歩具双隨從五六人ニスキ  
 ス其他七日目々々ニイシ有え天主ヲ拜及進行  
 前驅「ソラ」ダ「ト」ハ輕キ武官務ム紅衣ヲ着ス行  
 人是ニ遇ハ着ル所ノ笠ヲヌキテ脇ヘ挟ミテ兩  
 傍ヘ方レ立車行過ルヲ待ノミ拜スルナト云変  
 ナシ鹵簿儀衛サカニ成更ナシ具以下大臣等ニ  
 至リテ從僕モスクサシ王ノ宅ヲ「ト」シ「ツ」ハ士  
 庶ノ宅ヲハ都テ「イスパ」ハ王ノ寺ヲ「ソ」ボルハ

# 朱書

士庶ノ寺ヲハ同シクツエリコトイフ

明治三年己ノ出

王城

版世粵国尽卷

三條下

王屋城郭ヲ構ヘス土人商賈ノ宅相交ハル王居

モスコウ市中ニ

唯大ニ成而己侯都ヲ樓ヲ好ム王ハ六層石或ハ

寺院多シ名代

練土ヲニテタハミ上ゲタリ四方我國ノニ所ナ

ノ鐘アリ高ナ

ニ丈き人車ナリモ有可シテ隣舍合壁ナルモノアリト一ニツ

千六百トシ即チ

門前倡館有大臣執政退朝ヨリ至リ又妻子ヲ携

我四十三萬三千

六百貫目米ニ

ヘテ過飲スモス

リハ舊都ナリ宗廟アリ門ニ

スレバ巷萬八百

大ナル自鳴鐘ナリヲ懸クベテハルハ宗廟ノ門

石餘ノ重ナリ

モ亦有リ

モ亦有リ

明治九年三月六日

東京後入新書

三十四百六三ノ全

世東中大物上巻

露國ノ都府モモ

ニ在ルモニテ高

國六十八丈尺高

一丈尺餘有ナリ

最モ高ナリニ拾

三英方重ハ四十

一三ナシ百六ニ

アリ昔ヨリ花

タ元釣ニナリ

外國新見ニ

## 新都

ベテハルハ彼ノ國ノ新都ナリ北極五十九度六

分ノ地極陰濕寒ナリベトハ伝ハ中興ノ英主ニ

テ種々ノ功德アリ聖智神武トモ稱スヘシ詔民

ニ至ルマテ今ニ威美ヲ仰ク要ノヨシ昔此地大

蛇アリ生民ヲナヤマセシヲベトルハツ軍騎ニテ

鉞ヲ以テ斬殺シ開テ都ス海河ノ優リニヨリテ

富ヲナシ國ヲ強ムル要古ヘニ百倍シ萬國未集

セカハルモノナシ未タ不通國ハ日本ニ限ルノ

位成ル由シ是ヨリ國人志益大ナリベテハルハ

# 朱書

へ落来ル海河ヲ有リ尤河幅廣シ是ニ大橋ヲ架  
ス大橋ノ邊ハ水モ深シテ諸蕃船入来ル所ニ橋  
ノ側ニ「べトル」ノ像ヲ造リ威灵ヲ示ス則騎馬ニ  
テ鉞ヲ執テ前ニ蛇アリ「ムカリ」杯云畧ニモ此像  
ヲ鑄付ケルナリ

## 王后

王后別館宮廟莊嚴ヲ致ストモ門ニ扁ヲ不用毎  
門乎卒鉞ヲ持テ二人立而己ナリ敢テ人ヲ譏セ  
ス幸太夫又外國人モ皆宮門ニ出入シ或ハ國人  
ニ倂テ王后後園ニ遊ヒ女王ノ側ニ至ルヲ見ル

変ヲ得中ニモ別館ハ國人遊覽ノ所トス柔俄ニ  
女王至ル変アレハ戴ク所ノ簪ヲ脇ニ挟ミ兩邊  
ニ立車行過ルヲ待マテノ変ナリ王后政変ヲ商  
議スル変ハアルヘシ命令ホヲ行フ変ナシ官変  
ハカラフハ別ニ政府アリテ相別ス案ニ枚ハ省  
ナドノ類ニ見ユ

## 移居

其國第五月ノ終リノ日ニ至ルコトニ王必ス「ツ  
ワルス」コイエセ「ロ」伝所ノ宅ニ移ル國極メテ涸  
陰濕寒ナルト雖コノ時頃ニ至レハ陽氣至リ暑



# 朱書

契盛極ノ期我國ノ四月頃ニ此スヘシ此宅暖暑  
ノ度ニ宜シケレハナリ茅八月ノ終ノ日ニ至レ  
ハ又「ベ」テルホルニ移ル此宅寒冷ニ宜シケレハ  
ナリ兩宅ノ間ニ十八里石ヲ麓トナシ兩偏ニ花  
櫻ヲ植ム又「ト」云蟻石ニ似タル石ニテ文ア  
ル蟻石ヨリモ少し堅キ石ニテ造ル燈籠ヲ凡ニ  
十尙ニシテ一基ヲ道ノ右ニ置ク又二十尙ニシ  
テ一ヲ道ノ左リニ置ク且費表テナリキ女王其  
會計ヲキ「テ」モノヲカ伝是臣多トイヘル詞ニ  
主照政世ノ年初テ此言ヲ出ス伝ムラミハ蘭

人ノ船ニ積来ルモノナリ又此「ム」ラミ「ミ」ナリニ  
テ河岸ニノゾミテ觀ヲ建義農不可言サレトナ  
カハニシテ不果何トナレハ朝暮陰晴等ニヨリ  
皆水氣ヲ含啖流ルニ至リ注ムヘカラ又サハ  
ヲ以テナリ「ベ」テルホルト「モ」スクワト四五年ニ  
一度相移ルヌナルヨシ兩都皆地名ナリ王是ニ  
居レハ「ガ」ニ伝言ヲ加ヘ呼今女王「ベ」テルホルニ  
居スレハ「ガ」ニヘルボルナリ舊都ヲハ「バ」モスク  
ワ伝モシ「ム」スクワ移レハ「ガ」ニモスクワ伝可シ  
而「ペ」テルホル「ガ」ニノ字ヲ去ヌテ「モ」スクワ



# 朱書

ハ我國ニテ「モスコウ」ビヤト唱フル所ニ在キ都  
ナレハ街狭ク縱横斜途道ヲトルニ迂回迷ヒヤ  
スシバテハボルハ阡陌正シクテ墓園局ノ如シ  
都ハ甚廉カラス常ニ遊行スルニ四方ノ郊ニ出  
過タヤスキカ如シ 我京師ニ比セハ聊濶ナ  
ルカ如シトツ

## 市肆

市布帛衣被器物等ヲ賣モノハ多ク樓上ニ束ネ  
置列肆樓上ニ漫道ノ好キモノヲ造リ或ハ三層  
ニ造ルモ有り物ヲ買ントスレハ漫道ニツキテ

往來スル者ノ由シ穀酒肉麤惡ノ料其下ニ置ク  
新都諸外國ノ商船輻輳ス束船下錠スト雖其官  
ニ達ル者ナク凡通商スル國々兼テ彼河にニ館  
ヲ建テ置ケハ已々カ館ニ服ルナリ唯船來而已  
ナラス街衢ニ肆ヲ建テ國人ト達シ相婚姻ノ常  
テ隔ツル者ナシ都ニノミナラス四方ニ遊行ス  
ル者モ禁スル者ナシ又各國ヨリ俳優ヲ連シ来  
リ戲場ヲ造リテ見ル又人ノ見ル者ヲ互ニ厭  
フ者ナシ本國エヨリ戲場アリ多クハ白昼ト雖  
戸ヲ閉暗クシテ燭ヲ取りテスル者ナリ外國ニ

テ通商スル所ハ拳テ記サス肆ヲ造テ渡世スル  
者ニテ一國ハ幸太夫ガ記セシ靈鏡ニテ餘國ニ  
肆ト云々ヲハ「ガル」和蘭「カ」ランス「ス」オトマニ  
ヤ「トロツカ」ネメツ「スエツ」政羅巴ナリ則黒奴「ト  
レツコイ」モニコリツ「ベ」ガラ是等 我長崎ニ  
来ル黒奴ノ國ニ外國ノ等ハ「イキリ」ニ「ネメツ」  
ニ「フ」ラニツ「ス」テ餘國ニテ記セス諸厄利亞  
ヲハ彼國ニテハ「ア」ニゲリ「スト」唱フ北京ノ貨物  
ハ多ク滿洲ヨリ廻リ来リ通商ス朝鮮モ通商ス  
ト雖肆ナシ茶綿木綿布靴「ル」絹布ノ類事ヲ朝

鮮ノ貨物ナリ又高買ノ肆ニ構大ヲ設ケス又展  
障ナシ故ニ寒シテ徒居シ難シ肆ヲ守リ好華皆  
蹴鞠ヲス但 我國ノ數トスルニ大同小異アリ  
我國ニテハ蹴テ鞠ヲ高カラシム彼國ニテハ  
横ニ蹴テ柱壁ナトニ當ラシメ飛返ル所ヲ又蹴  
ル変ノヨシ是ヲ以テ身ヲ勞シ寒ヲ退ル変ノ具  
トス

### 屋室

都ハ總テ屋室ヲ造リ居ル而已ニテ園樹木ハ甞  
テナシ家大小共ニ唯一宇ニスル王屋ハ六層白

# 朱書

余ノ大家伝モノ四五層或ハ三或ハ二都テ樓居  
ヲナス茅五層ナルモノハ閣下ニ牛馬ヲ置ク或  
ハ柴薪等ヲ置クニ層ヲ厨烹トシ又下輩ヲ置ク  
三層ヲ侍回層主人居ノ上層ヲ器物ヲ蓋藏スル  
所トス盆樹ヲ好ミ或ハ銅ヲ延テ大カ敷丈ナル  
盆ヲ造リ花樹ヲ植或ハ火ヲ貯テ葡萄ヲ熟サシ  
ムエナル大カヲ増換シテ一根ニシテ上枝ノ實  
ハ上層ニ出テ已ニ紫ニ熟シ中枝ハ下層ニアリ  
テ猶青最下ノ枝ハ未熟ニ作ルモノ有リ都テ珍  
奇遠物ヲ翫弄ス有力ノ者ニテ互ニ得難キモノ

ヲ得テ以テ相ホコルノ変ナリ則又多ク三四層  
ノ上ニ設ク四窓都テ硝子ヲ障子トス窓隅ニ銅  
ヲ以テ大ナル筒ヲ造リ最下ヨリ上層ノ屋上ニ  
貫キ出シ筒ノ上ヲ覆兩ヲヨケ毎層此筒ノ中ニ  
テ火ヲ焚更寒暖ニ随ヒ多少アリ故ニ極寒ノ時  
ト云凡此樓上ニ座スレハ 我國三月南風甚シ  
キ時ノ如シ殆ト久座ニ堪カタキヲ覺フ是ヲベ  
ーテ伝炭有ヲ見ス薪ノミヲ用エ故ニ煙ヲ憎ム  
更切ナリ窓煙リモ上ニ引テベーテニ入屋上出  
シカハ徒僕風興シテベーテニ薪ヲ加ヘ主人発

# 朱書

起シテ采ヲ吐テ白見ユル変アレハ「ガミヨルト」  
 テ臣僕化「ガミユルト」ハ凍之寒ナリ賤家陋室ト  
 雖此ニ准ス厠ノ造リ方一方ヲ高クシ腰ヲ懸ル  
 様ニシ長カハ勿論太小家ニ随フト雖一丈モ有  
 カ如クニシ且段ノ上ニ前後渡ノ落ル程ニ圓ク  
 イクツモ穴ヲクリ穿テ右蓋ヲ造リ置ク中人以  
 上ノ厠ニ上ルニハ火皿ノ大キナル煙管ニ煙鼻  
 多ク貯ヘ書籍ヲ懷ニシテ煙ヲ吸フ書ヲ閱ニモ  
 緩々トシテ聊モ氣ツメ腸ヲ張テ速ニヤスル心  
 ナシ慎ヲ如此スルハ其壽ヲ損スル変アラニヲ

ヲツル変ノヨシ妻子等後ヨリ至シハ元僞シ物  
 詠ナトシ敢テ避ケス後ヨリ裳ヲ覆ヘハ見エリ  
 キ度ナキ故ナリ都テ養生ニ篤シ皆此類ナリ去  
 レナハ百歳ニナルモノ多シ唯貴人富家壽有モ  
 ノ稍少シ厠ノ穢是ヲ捨ルニハ中夜ノ後ヲ用亦  
 田ヲ肥スル変ナシ鳥獸ノ糞ヲ以テ田ニツ、ク  
 人失ハ海上數室ニ往テ糞是俟畜多クシテ田少  
 ナケレハナリ

## 家財

自鳴鐘ネツケ時計ノ類ヲ多ク好又方鏡ヲ一室

# 朱書

ニ二三面ヲ懸ク多キモノハ四五枚子ツケ取計  
ハ七八或ハ十餘ヲ掛ケ貯フ又又天主ノ位ヲ設  
ク天主ノ前ノ燭ニハ多クハ燭ヲ不用硝子鐘ニ  
油ヲ盛り綿ヲ巾ニ置テ火ヲ炙ス油滅スレハ綿  
随テ降ル油多ケレハ綿随テ上ル油尽カレハ不  
滅ニトル又燭ハ多ク牛兒ヲ炙テ取ル故ニ天主  
ニイムヨシ本ノ実ヲシムル油ハ燭ハ極テ多シ  
キトソ

士庶

士ト商トハ家居ノ飾リ異リ凡 我國ノ玄関ト

可云所ヲセニニヤカ<sup>レ</sup>伝<sup>レ</sup>セニニヤカ<sup>レ</sup>造リ形樓  
成ルカ故ニ長楯ヲ造リテ有り楹左右ヘ斤ケ分  
レ登ル様ニス貴者ハ衣楯ニ所亭者ハ衣楯ニヨ  
ル士ノ宅ハ上層ノ前ノ方ヘ家大小ニ應シ又大  
小アレト張出シテ斤ケ形ハ四方ニシ三方皆窓  
ヲ開硝子障子ヲニシテ眺望ノ所トス又宅前ニ  
鐙ノ高カ六尺ナリヤルヲ貳本建櫓ニ又鐙ニテ  
釣ヲ懸ケ置何ノ備ナル辨セスト雖モ此ニ物商  
賈如何ニモ富家ト雖モ是ル豈能ハス庶人<sup>ノ</sup>士人  
ヲモテ相保セシム

# 朱書

## 奴隸

庶人良家奴僕ノ分ナシ唯貧者奴トナリ或ハ不肖子ヲ懲スタメニ奴隸トナス者アリ是等皆年  
月ノ期ヲ定メ雇賃ノ類ナリ終身成モ有カ如シ  
弃兒

兩都弃兒ヲ收ル館アリヲ設ク貧者兒ヲ養育スル  
妻ヲ得カレハ夜館ニ至リ牆ヲ敲キ牆ノ下ヨリ  
赤子ヲ受ル板ヲ差出しテ請テ引入次ニ金錢ニ  
報ヲ載セ出し弃タル親ニ與フ其明ル日館門ニ  
榜ヲ出し昨夜何處ノ弃兒東西第幾房ニテ養フ

ヨシヲ記シ置ク親此榜ニ因テ尋テ所ヲ和ル妻  
ヲ得心ニ任セ往テ安否ヲ見ル但親子ト誤認ヲ  
許サス是已ニ弃タルヲ以テ法ノ如ク此飢テ生  
存ヲ見セシムルハ情ヲ恕シテ然ルナリ館中ニ  
ハ乳母ヲ置医藥ヲ設ケ長スルニ随テ書數其他  
ノ藝名師ヲ置テ字ハシム館を宏大ニシテ左右  
ニハ房ヲ連テ幼子ヲ養ヒ中ニ教場ヲ置ヌナリ  
人ト成テ其方ニ從テ他<sup>官</sup>ヲ授ス是侯國一夫一妻  
ニシテ子ヲ産ム者不多又涸寒ノ國ニテ冬春生  
ル子多クハ不育嗣子ナクシテ絶ルモノ有故ニ



# 朱書

又子ナキ者弃児館ニ往テ撰ニテ子トセシ更ヲ  
欲スル者ハ許シテ養ハシム弃児館ヲ置ハニ都  
ニトバマルト雖モ縣官ノ所ニ留此處ヲ抑テ行  
フ更ナルヨシ

## 滋湯

井ヲ堀リテ水ヲ汲麦村落ナドニハ有シ凡稀也  
多クハ河水ヲ吞汲湯ハ皆石ヲ燒テ水ヲ沸キ氣  
宣中ニ滿其内ニ入テ或ハ座シ或ハ偃卧シテ垢  
ヲ掛否爪昆敷アリ大ナル物ニテ我國本願寺  
ノ浮圖殿枓ノ構ナリ一人三錢モシ五錢ヲ與フ

ハ条一盤ヲ出シ衣裳襟佩ヲ穿ル又人々ノ宅ニ  
設ル流ルニ初メ氣ノ盛ル体ニ宜シカラサル日  
ニ先其家長ヲシテ流セシメ其次ニ主人其次ニ  
我族臣妻ニ及フト也

## 園氣

王ノ園ニハ四時ノ而氣ヲ植寔ヲ恐ル、物ハ地  
ヲ堀テ室トナシ又其下ニ穴ヲ堀リ通シ候口ニ  
テ穴ヲ<sup>堀</sup>堀テ廻シ陽氣ヲ含マセ氣寔ヲ造ル園ヲ  
預ルモノハ葵杏利ノ人、イワニイワノウイチ、バ  
イコルフ云此園又他ノ盆樹等ニテ見タルモノ

# 朱書

名ヲ知ルヲカル物ハ記サス梅葡萄フナナシニ  
 ニシテ牡丹菊桑イナゴ菜花竹アビヤ櫻我  
 國ノモノハ蘭人ヨリ得タルナリ

## 牧畜

國人儲量ヲ勤メカリハレハ麦黍ノ外ハ獸肉  
 魚鳥ノ類ヲ以テ耶ニ満麦黍ト雖モ多食スルニ  
 アラス秋祿アツキモノハ畜隨テ盛ナリ人畜可  
 疑ヲハカリ田宅ヲ問次シテ畜ノ多寡ヲ算畜ハ  
 牛野牛猪豕鳥ハ我國ニテ云白鳥カラクニイ  
 ンゼイカト云鴨鳧雁雞鳩卵ヲヤイフ伝凡獸蹄  
 子ヒルカモ

ナルモノヲ食フ熊駝狐狸ノ如キ五指類人ニ近  
 キ類スルヲ嫌フニ似タリ又勞便スルモノ食フ  
 ニ忍ヒス食物勞便セス牛カアリト虫モ役セス  
 馬蹄アリト虫モ食ハス山野獵スル物ハ爰ニ止  
 ラス猪白鳥共ニ子イヨク伝實ハ猪白鳥ノ名ニ  
 非ス一ノ畏ト云也二物畜ハ人ニ馴テ觸踢ス  
 ル変ナシ山野ニ有ルモノハ人ニ觸ルヲ以テ斯  
 名ヲツクルヨシ鹿モ食ス魚ハ食サル物ナシ湖  
 巢ハ郷江實ハ鮭マス郷海實ハカレイ鯨トイコ  
 ノ子イカ伝名ヲ知ラサル物ハ不舉

# 朱書

## 儲獸

處女皆<sup>猪</sup>養ヲ業トス畜ハ人ニ馴テ豕ト豨ハ  
 変テ<sup>レ</sup>バテ<sup>ル</sup>ホ<sup>ル</sup>ニテ日ノ夕ナラニスレハ四  
 郊ヨリ白鳥鳧雁或牛羊豕野牛ノ類牽来白鳥ナ  
 トハ一人ニテ百頭モ牽来ル市ニ出テ販賣ス鳥  
 ハ皆翼ヲ鍛<sup>ハ</sup>獸ハ罽<sup>丸</sup>ヲ舂<sup>ル</sup>故ニ一人ニテ數百  
 頭ヲ牽マトヒテモ不闕又風逸スル変テ<sup>レ</sup>如<sup>斯</sup>  
 ノモノ幾<sup>解</sup>トナリ入込変ナリ牛乳ヲ賣者ハ  
 我國ノ白酒ヲ賣者ノ如ク壺ヲ携シ来ル姦ナ<sup>ル</sup>  
 商人ハ水ヲ<sup>如</sup>シテ賣ル買モノ自ラ枹ヲ取りテ

試テ果シテ淡ナルモノハ價ヲ損セシム乳モ酒  
 モ賣手酌テ與フル変テ<sup>レ</sup>價タケノ升アレハ買  
 手カ自ラ酌テ飲変ナリ又河水ヲ乳中ニ入レハ  
 濃ニシテ凝タル<sup>秋</sup>ニ似タリ

## 鮮肉

屠戸伝モノ別ニナシ 我國ニテ料理茶屋ノ様  
 ナル所ナク云<sup>所</sup>テ鮮ヲ割シム一牛ヲ鮮スル値  
 ニ槍五文

## 裂丸

罽丸ヲ去ル変<sup>所</sup>ニテモ犢ニテモ具獸ノ壽ノ長

# 朱書

短ニ因テ長ノ程合各過有此変ニナラヒタルモ  
ノ都會村底ヲ廻リ高アル者ハ雇テヌカスル之  
二人連ニテ来リ其獸ノ足ヲ堅ク縛リ刀ヲ引テ  
囊ヲ裂キ丸ヲ引出ス捨テ跡ヘ塩ヲコメ縫合テ  
置一所日ニテ癒ル変ナリ此業ヲスルモノヲキ  
リメニ伝一高ニテ拾ミ又取ナリ

## 爵祿

王ノ親族三家ナリナリシキン伝 我親王家ノ  
如シ官政ニ預カラス俸銀ヲ給シ邑ヲニ食マス  
一ハムスリクニ在リニハペテルホルニ在リ王

嗣ナケレハ入テ継ク爵十九等ナリシキン其カ  
ラス又諸侯卿ノ如キニモ世祿アリ然ラサル在  
世祿ヲキニヤ子伝世祿ナラサルカラフ伝所謂  
十九等ハ第一エナラウラスーリトマルシヤウ  
三人銀五萬牧ヲ統又邑アリ此中一人名ヲキニ  
ヤ子リゴシエレクオドロウエ子ホ子ヨニキ  
ン伝カレガ肖像及采邑ノ圖三銘ニテ鑄タルモ  
ノ在リ幸太夫崩歸シリ圖下ニ掲シ幸太夫キリ  
口ニ向テ此一邑ヲ我萬石ニ當ラニヤト問シ  
ニキリニ對テイツシヨヘボリシヨーイ伝シイ

# 朱書

ツシハ願ト云カ如シ「ボリシヨイハ倭ナリ大ナリ然ラハ聊カマサルカ如シ」云意ナリ此三家ニ可ナルモノ有シハ王妃トス又宦職也國大儀有時ハ出テ謀ル幸太夫カ都ニ上リシ三五年前「アラツパノ黒奴交易ノ変ニ所キ」ベテルホルノ買人ヤ輩ヤトノ内ヘ石ヲ入テ秤目ヲ換メ渡シタル変有シテ怒テ軍艦數艘ヲ以テ攻来リ買人ニ向ヒ大錢ヲ打懸リ俄羅斯自系トシテ戒嚴ナトスル変ナシ又一使ヲ走テ敵ヲ問ハス買人共彼是シテ和解ス去レ共是都下ノ買人カ姦ニ仍

テ外國ノ兵ヲ動シタル変ナレハトテ「ギリコレ」イテ彼ノ國ニ遣リテ謝セシム変アリシヨシ「ギリコレ」ハ此歸リニ船中ニテ病歿ス

## 賜絵

「ギリコレ」肖像一闕 同人邑圖三 闕 第二「アナラウ」アコシラ 二十人

銀二萬五千 此「アコシラ」出ル時ハ二騎ナリテ全走ル変ナリ

第三「エナラウ」ポロツナリ

銀萬五千

第四「エナラ、ウマヨル」

銀一萬 此マヨルヨリ侍従ノ官ニナル「エナラ」  
タニ伝王ノ近側ニ仕フル変ニ金ノ捻リタル縄  
ノ様ナル物ヲ佩以上四等諸侯又卿太夫トモ云  
可キモノ、如シ

車六馬ニ駕ル

第五「テルサニ或ハ「ペルカセウ」トモ云

銀八百

第六「ボウコウニカ」

銀七百

第七「ボ、コウニカ」

銀六百五十

第八「ビリメル、マヨル」

銀四百五十

第九「ニンクン、テマヨル」

銀同

以上天子ニ見ル変ヲ得車四馬各在五等士伝へ  
キカ如シ

第十「カビテイニ」

銀三百六十且実ハ一日一牧モテ給ス此以下五



# 朱書

等「ア」セウヨリ爵ヲ出ス天子ヨリ出ルニ非ス  
 第ナ一「ボ」にツチク

銀三兩收此「ボ」ロツチクヨリ以上ヲ「オ」スツボ子  
 ニ「ハ」ト稱ス尊フ詞ナリ人ヨリモ斯ク稱シ又然  
 ラカレハ自分我ハ「オ」スツボ子ニナト云我爵々  
 ナト云ヘルカ如シ此已上長劔ヲ在ノ服下ニ提  
 劔長キヲ「ス」ツバカレトイフ短シテ  
 太刀依リナルヲ「カ」ラフトイフ

第ナ二「ボ」ハロツチク

銀二兩七テ五此劔已下劔稍短シ腰間ニ提幸太  
 夫ヲ送ツリ来リシ「ア」ダムナトモ此宦ナリ

第ナ三「ク」ラボツシキ

銀同幸太夫ヲ送リ来リシ船頭コノ宦ナリ

第ナ四「ク」ニラツボシキ

銀二兩五テ此「ク」ニラツボシキ以上罪アリト強  
 モ校ヲ加ヘス一室ニ開居セシメ罪ヲ久聞ス開  
 居ノ間ノ俸祿ヲトハム罪重キニ決スレハ庶人  
 トス輕ケレハ開居日數ノ多少ヲ以テ差等ヲナ  
 ス免サレテ後モトノ職ニカヘル「ク」ラツボシ  
 キヨリシテ已上賤ナレハ地ヲ賣テ已カ有ト止  
 ル莫ヲ得又陶器硝子水雄等何ニテモ密函廠ノ類

# 朱書

ヲ買持受モ同前ニ此已下セシガントニ至リテ  
ハ地ヲ買フ受テユルサス

第十五セシサント

銀七十五セシサントヨリ以下ハ諸士藩鎮酋長  
等王朔ニ聞ニ不及各自ニ興フルノ爵アリ此セ  
シガントヨリ已下ニ至リ短劔ヲ右ノ帶ニ挟ム  
醫師此爵比セシガントヨリ罪マレハ打  
第十六ウイニセ人アキリセウ

是ヨリ已下銀ヲ給セス月毎ニ表着テヲ給ス國  
銀ヲ給スルヲ貴シトス秋俸ノ少キニ至リテ表

肉オヲ自分買ヒテ贈スル変能ハカハヲモテ官  
ヨリ表ヲ給スル伝イハレサシ

第十七カプラン

第十八ソウダテ 十八百人

此ソウダテ武官ヨリ賤シキ者ニシテシカモ重  
リ用太子ヲモテ是ヲスヘシム彼力重セラシ且  
權ナル変能知國中ニテモ恐シ且自武權ヲ示ス  
ニ至ル所我ハソウダテナリ伝分テ六隊トス毎  
隊三百人六隊ナリ四所ニ分テ置ク館内各舎有  
館内枋ヲ懸テ第幾隊ト記ス四隊ハ王宅ノ宅衛

# 朱書

ヲ勤一隊ヨリ而人宛七日ニシテ放下ス交易ノ  
 日ハ上直ノモノ而人馬ニ乗来テ王度庭ニ入り  
 一方ニ立下直ノモノ而人又一齊ニ立預々所ノ  
 鳥銃ヲ玉ヲコメズシテ三發シテ後上直ノ者ニ  
 授ケ上直ノモノ受取テ三發尔後下直ノ者上直  
 者カ乗来シ馬ニ乗テ歸ル上直者ハ特ニ此所ヲ  
 分シ直ス交賛ノ時ハ王必見ル變ナリ市甲ナト  
 立テモ且曰ハ出テ見ルヨシ他ノ二隊ハリ守テ  
 州縣等へ行又王子ナトノ館ヲ守リ王后ノ宿衛  
 ハ務メス州縣オニテハソウダテヲ方テ處セ共

足サレハ別ニソウダテヲ授同シク役ニ使フ去  
 レトモ同等ナト變能ハス服飾モウシ差アリソ  
 ウダテ銃ヲ備テ直立スル変ヲ習フ所ノミニテ  
 モカミタマ丸ク見ユルヲイタク耻丸ヲコメテ  
 的ナトヲ打変ヲ見ル変ナシ闘戦ニハ他ノ兵器  
 ヲ不用甲冑ヲ不用火銃而巳ヲ用ト云々此兵画  
 ニハソウダテ斧ヲ提タルヲ見ル王「ヤトルモ斧  
 ヲ操然ハ戦陣ニハ必斧鉞ノ類ヲ用ユル事ナシ  
 他ノ兵器ハナカル可カラス  
 茅ナカガアカ

案ルニ十九等ノ名実ハ未官職爵位ヲ辨セス然  
レ共「エナウマヨル」ヨリ「エナウタニ」此「エナウタ  
ニ」ハ王ニ侍従スル官ニ爵位ニハナラス又医官  
セ「ガシ」ト「内」ニアリ列縣官等稱其稱ヲ陟セ  
ラル、モノナリ而列縣ノ職ニハ非ガルニ似タ  
リ又彼ノ國ノ役人戸ト云者餘程多キモノ、ヨ  
シ是ヲ考フルニ十九等ハ爵位ナトイハニモ  
ノ、如シ若官職ナリト云ハ、俟簡易ト云フ共  
十九ヲ以テ納ム可カラス

車馬

車ハ中ヨリ折ル様ニシハ馬ノ車モ如何ナル隘  
巷ヘモ還リ入ルナリ馬ニハ程々排ナトニテ包  
ミタルアリ目ト尾ト蹄ノミ出シテ包ム見モノ  
ニ「キニヤ」ハ只世祿而已ナラス爵ヲモ世々ニ  
ス「カ」ラフハ高官ニ至ルト云モ父死スレハ子或  
ハ「ソウダ」ナトニ成リ又切レカヲ積テ出身ス  
僧侶六等アリ  
「サム」可ラス  
第一「ミ」テ「ス」コ「ツ」ボ

有驗高僧ニ成ラサレハ此爵ヲ與ヘス俄羅斯ノ  
天下三四人ニスキス「イ」リ「コ」ツ「カ」オ「ホ」ツ「カ」

ヤコトツカ<sup>レ</sup>子キリアダニス<sup>コ</sup>等カケ唯一人<sup>ニ</sup>

第二<sup>ア</sup>レヘ<sup>レ</sup>

已上ニ等車六馬ヲ駕ス妻アル事能ハス

第三<sup>ポ</sup>ロトツ<sup>ポ</sup>フ

第四<sup>ホ</sup>フ

車四馬以上四等尤一時ニ住持ス死者アレハ引  
導シ葬ルモノニハ教化媒始スル変ヲ得已下ニ  
等ハ然ル変能ハス

第五<sup>ヤ</sup>ア<sup>コ</sup>

第六<sup>デ</sup>ヤ<sup>ア</sup>コ

車ニ馬

「ホロトツ、ホフヨリ已下住持タリト出モ妻ア  
ル変ヲ禁セス然レバ齊僧モ有リ齊僧ヲ高トス  
妻アル者ヲ卑トス破戒ノ説ナケレハナリ齊ス  
レハ獸肉ヲ禁ス巢鳥ヲ齊食トス牛乳ハ齊日不  
嘗

出朝

朝ハ冬ハ未明ニ朝シテ日中ニ退ク夏ハ明テ朝  
シテ退クハ同シク日中ナリ未明夜行ト出モ燐  
ナトヲ役人燭ヲ持タ等ノ変ナレ夜國同トニハ

# 朱書

アラヌカレ氏夜明ラナラカレバ之又街衢ニハ  
燈ヲ連ヌル度ナリ邑アルモノハ則我諸侯ノ  
如クト由モ陸臣至リテハ至テ多カラヌ又其賊  
キ陸臣ハ劔ヲ不帶

## 縣令

諸列郡ニ置官ヲコロギンイ子伝具副ヲアラリ  
伝錢財ノ司ルコロギンイ子カ給スル銀ト由モ  
アラリカ渡ス所ニ列郡ノ大小又其人ノ功勞等  
ニテ輕重ハ有様子ナレ氏太守縣令奉行代官と  
杯分チ言ハス其下ニハソウダテアルノミナリ

賦税ハ人頭ニ係テ取ル男十六ヨリ五ナマデイ  
ルコソツカハ邊ヲ以テ銅錢三百七十五文其他  
ハ大斛五百文ヤコソツカガホツカハ錢ヲ不収  
狐皮ヲ取テ六七十五六ヨリハ少シ輕クスル  
法アルヨシ

## 方僦

國侯都テ内外ノ方ナシ密モ妻子ヲ携来主家モ  
又家族出接ス只飲燕ノミナラス公吏ヲ淡訴ヲ  
聴度モ又妻孥ノ問ニシテ不悌賤官杯ノ宅ニテ  
ハ訴アルモノ門外ニ立テ主夫婦カ食ヲ畢テ待



テ入吏ヲ云フ公吏ト爲モ家族吻ヲ容ル吏辯カ  
ラス然レハ官制セス人モ亦謗ラス

### 異民

遠列僻郡ニハ必異俗ノ民アリ勿論兩都ノ邊ニ  
テ在ルナリヤ「ヤコトイルコ」  
ツカ「ブラツケトニグースチキリニハチエホ」  
杯云類也是等ハ直ニ「ゴロヂイ」テヲ収メス別  
ニ官ヲ置ク名ヲ「カブラレ」ト人々「カブラ」ニタル  
吏ヲ表ス故ニ任ヲ五年ニ限ル又彼異俗等皮革  
ヲ賂ス官ユルニテ取ラシム是ニ依テ「カブラ」ニ

難苦ト雖モ利又大ヒナリ彼是ニテ官ヲ空フセ  
ス列縣ニテハ膳飲杯席腹「ゴロヂイ」子其次子  
僧其次「ブラ」其次「カブラ」ニ如斯ナリ

### 卑官

列縣官ノ子ニテ又所々（小縣官如キモノヲ置  
ク）吏多シ尺大小ノカハリ有ノミニテ治リ方ハ  
同シ

### 寄病

女官ノ吏ハ聞カス幸太夫ハ「ヤテルホル」ニ在シ  
時寄病セシハ「スワルゴ」ニ「コ」フ「ポー」コ「ニカ」

# 朱書

トテ歴々ナリ外國ノ吏ニ預カル役ナル故章太  
夫モカレニ宿シタルト聞書ヲヨリス随ヒ學フ  
者多シ妻ヲ「ア」ニ「ロ」イハ官人ナリ章太夫ヲ女  
主ノ見ル時ハ此婦人先ツ王ノ所ニ行テ在ニ  
有章太夫カ國言讀ニ習フト齒モ唇牙既モ國人  
ノ如ク成ル吏アタハス女王王子杯ノ極テ舞シ  
難カラシ爲メニ然ルナリ箇様ニ王所ニ出入ス  
ル吏至テタヤスカシ「ス」ルゴシ「コ」フカ宅ニテ  
終ニ婦人ノ供人杯用意スル沙汰モ「ス」イワイ  
ナハ活達ナル婦人ニテ人ヲ避ス戯ハレタル言

ヲ出し不行ナル吏ハ有間敷キ「ト」抱ズ振舞  
ナトヲ仕ケリ是宦人ノ風然ル申シ

## 伶人

王ノ伶人ナセ戸アリ其内歌者三人アリ是羣丸  
ヲ公ルトナリ凡羣丸ヲ拔公ルノ法男ニ生レテ  
初ナル辰ニ拔ク彼ノ國高ノ羣丸ヲ去ルモノハ  
是ヲ職ニスルナリ高ノ大小又其高ノ壽長短ニ  
ヨリ生レテ幾日目ニ公ルノ法アリ人モ其時有  
ベシナセ戸常ニ高ノ羣丸ヲ去ル者ニ随ヒテ學  
フ吏ナリ「キ」リ「ロ」説サテ羣丸ヲ去ルモノ、音聲

朱書

妙ナル度ノヨシ凡人ニ對シテ歌ニ度ヲ詔ルニ  
ハ<sup>新</sup>ノ<sup>詠</sup>イ、ホイ伝舊ヲ<sup>イ</sup>シタラ<sup>イ</sup>ハ<sup>イ</sup>伝ボニサトハ禁  
止ノ詞ニ止ヨト云度ナリ何度モ新哥ヲ好ム度  
ナリ唯<sup>黒</sup>子ヨルノ井カ<sup>目</sup>ガ子ヨルノイブルビ子ヨ  
ルノイオロソウニテヤ井ナミ<sup>欲</sup>ミ<sup>偏</sup>オロウニ  
子ヨ<sup>井</sup>ナ<sup>井</sup>此<sup>井</sup>一<sup>井</sup>扁ノミ人々ヨリ歌フウタ也<sup>イ</sup>ア<sup>イ</sup>ダ  
ムガ子モ<sup>井</sup>ロヘ来<sup>井</sup>ニ<sup>井</sup>和<sup>井</sup>人カ歌ヲ聞タキヨシ  
ヲ告テウタヒ候得共幸太夫カ勸メシ時モ<sup>イ</sup>ア<sup>イ</sup>ダ  
ム此歌ヲウタヒシトゾ又何シガ貴様ノ人ノ女  
ニ幸太夫カ 日本ヨリ萬里ノ外ニ漂流シ風波

ノ難ニ逢ヒ孤島無人境ヲ渡リテ幸甚苦シテナ  
三幸ヲ経タルト云度ヲ長篇ニ作リテ幸太夫ニ  
教歌ハシム人はヲ聞ハ覺ヘス涙ヲ落ス後ニハ  
都下ニ傳ヘ人々はヲ歌フ幸太夫是ヲ歌ニト  
スレハ坐客皆ホニナト云テト、メシホニナト  
ハ止リト云禁止ノ詞ニ

本書此下一葉空紙染  
字蓋有所譚而割奪者

舞曲

舞ハ男ニ女ニ相連テ舞フ都テ一様ニシテ異ナルフリヲ見ス燕飲ノ時ハ夫婦女子賓客男子女子皆自ラ方舞ヒ相手ヲ求ル暇ハ或ハ主家ノ女子

テ賓客ノ前ニ至リ揖賓客ヲ舞フ変ヲ不<sub>レ</sub>衰纔ニ低  
頭シテ立ズ若<sub>レ</sub>促ス變再<sub>ニ</sub>テハ不得止<sub>ニ</sub>變答<sub>レ</sub>礼  
シテ立テ舞フ一曲シバシ時ヲ移ス變ナリ畢シ  
ハ又<sub>ハ</sub>四人立テ舞フ

歌妓アリ絃歌ス舞妓アル変ヲ不<sub>レ</sub>聞<sub>ニ</sub>樂舞ノ類雅  
俗殊ニ別アル変ヲ不<sub>レ</sub>聞<sub>ニ</sub>朝廷庶人<sub>ニ</sub>都テ等カ如<sub>ニ</sub>  
相見

凡人始テ相見ノ儀必<sub>ニ</sub>立テ口ヲト口ヲト合テ  
互ニ立テ口ヲ閉ル是ヲ<sub>ハ</sub>ボ子ヨアイ伝相別ルノ  
時又古節良會<sub>ハ</sub>能<sub>ハ</sub>ボ子ヨアイス 我國ニテ目出

度杯言ハニ折フシニ用ユル変ナリ貴賤男女ヲ  
避ス宛別又然リ王ト雖モシカラガル変ヲ不得  
但主尊ナルヲ以テ始見ノ時両手ヲ捧出ス王指  
モテ掌ノ中ヲ押スシカシテ是ヲ嘗又<sub>ハ</sub>ボ子ヨイ  
ノ儀ナリ都テ官位有ル人親戚ノ内ニテモ尊者  
ヲ見レハ両手ヲ出シ貴者ノ手ヲ戴ク変ナリ

### 面見

凡僕徒有モノハ僕朝夕主夫婦及男女等ニ都テ  
主人タル者ノ所ニ行テ面ス主人必手ヲ授テ勞  
ス昏夜寐所ト雖モ不<sub>レ</sub>避子第僕徒出ル変アレハ

# 朱書

必ス請フ歸レハ必ス面ス朝タノ儀ノ如シ臣僕  
子弟タル者其長上ニ罪ヲ得レハ頭ヲ具主父兄  
ノ人足ニスリ所ケ謝ス若憤怒トケガハ時ハ足  
ヲ引テ不授已ニ足ヲ出シ授ケタルニ至テハ前  
ノ罪恙リトケテ重テ尤ル変ナシ

## 理髮

理髮男女貴賤各殊ナリ 我國ノ髮緒ト云者ノ  
如キアリ但髮ヲ剃モノ鬚ヲ剃モノ髮ヲ理モノ  
各別ナリ一人シテ兼ル変ナシ鬚髮ヲ剃ルニハ  
猪乳ヲ塗リ剃モ不散又痛ム変ナシ髮ヲガロリ

伝理ヲ子イヒ子伝鬚ヲホロタ伝剃変ヲホレイ  
伝貴者ハ項ノ前ノ方ヲ手ホド剪是ヲ剪ノ法梳  
タル鍔ヲモチニ計ヲノコシテ鍔具残リタル  
髮梳縮セバヨシ而鬚ノ邊ヲハ殊ニ長ク残シ膏  
ヲツケテ輪ニ造リ針ヲサレテ雷メ左右ニ分ケ  
垂ハ貴者幾ツニモ方テタル卷上テ數ヲツクル  
後ハ方ヲハ辨シテ無理髮已ニ終リ芋ヲ乾シテ  
末ニシル白粉ヲフリ懸ク芋ハ<sub>ハ</sub>ヤガタ  
程多ク懸ク賤者然ル変能ハス麴ヲ掛シハ蟲ヲ  
生ス蘭人 我國ニ未ル者頭ニ白粉ヲ見ル蓋僧

# 朱書

成ルヘシトハ髪ニツクル膏ハ 我國ノ鬢膏<sup>稱</sup>ト  
云物ニ等シ理髪如斯極テ六ヶ敷シ稱モスレバ  
予日ニ至ハ貴人はヲイトフモノ多ハ頭ヲ髡シ  
出ハ時ハ是リ髪ヲ冠リ出ツカワヲ是リ置底  
人ハ剪髪スル変ヲ得ス

## 女壯

婦人紅粉ヲ斤ク粉ハ薄ク斤クト齒モ巾ニテ掛  
ヒ去ル又兩頬ノ紅ナルヲ好ム故ニ又燕脂ヲ淡  
クツク底ニ斤ハ変ナシ國人<sup>也</sup>白底紅ナリ醜女子  
有ト齒モ色黒キ者ナシ髪モ赤シ髪黒キモノハ

面色モ亦ヤ、白カラス

## 再縁

女嫁シテ夫死改嫁ス三度ニ及フ頃又愁ニ戒喻  
ス不幸ニシテ壯ニシテ二度モ夫ニナクル、変  
アレハ嫁スハ変ヲ得ス但し人ノ妻トナル変ハ  
又制ノ外ニ<sup>此條在ナ  
四則誤寫</sup>

## 惡疾

癩癧小疹ヲ患ル者ヲ見ル変ナシ

## 齒短

齒<sup>ナ</sup>クキ<sup>ナ</sup>短クシテ齒<sup>ナ</sup>短ニ見故ニ老ニ至ルマテ齒



朱書

凡<sup>ミ</sup>変<sup>ミ</sup>ナシ牛枝ノ首ヲ橈<sup>カミ</sup>タラフ変ヲ嗜<sup>カ</sup>曰  
本人ノ齒ヲ見テ色白シト云<sup>牛枝ノ誤リナルカ</sup>

俄羅斯畧圖卷之一 終

鄂羅斯異聞卷之二

目錄

|    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 狐惑 | 毘物 | 海獸 | 孝語 | 小島 | 布帛 | 膳具 | 國粹 |
| 殺死 | 坐問 | 藤木 | 鳥獸 | 燒服 | 皮服 | 燕飲 | 手升 |
| 發帆 | 問蒼 | 大湖 | 魚賣 | 雪丹 | 異俗 | 服色 | 入京 |
| 尺八 | 難問 | 硝子 | 川魚 | 質問 | 幼術 | 服飾 | 飲酒 |

賣錠 歸差 海民 三板  
 望問 悪口 名竹 藥舗  
 麦食 米飯 一角 金樹

已上

俄羅斯異聞目錄 栗

俄羅斯異聞卷之二

國秤

秤ヲメテベハ四貫目ヲフトトハ何ノ物モ此フト  
 トトヲ定規ニシテフトトニテ何程ト値ヲ云我  
 國ノ秤ニテハ四貫ニ十五文目ニ當ル皮葦肉牛  
 乳モ皆貫目ヲモテ賣買ス牛乳フトトニテ三百  
 五十文都ニテモ四百五十拾文位ナリ

手升

升ヲウニリハ其形尤ニ圖ス



如斯我が壺升ニ比フレハ少餘計ナリ拾升罷ハ  
ホニテ造ルガリヤウノ模印アリ酒甕乳密等ヲ  
斗ル升ハ僅ニ應ニ此方ノ系碗ノ位ニ取ニ壺升  
置ニ同シ十字升五升杯云裁尺ヲアリシニ  
伝鑄ニテ造ル二尺差ナリ我曲尺ニ當レハ二尺  
三寸六分在リアダム等幸太夫ヲ送テ松前ニ来  
リ和尺ヲ見テ皆ホリナリ伝是半方ニ伝更ナリ  
又彼國ノ制六尺ヲ一肯トスナデニサセニ伝歩

五百ヲ一里トスオゲンヨルス伝是ヨリ數ヘテ  
十里而テ萬ニ至ル是ヲ我國ノ里數ニ直サニ  
ニハ三六ヲ以テ割彼ガ三十里我ノ里有奇ニ丁  
ル是幸太夫ガ説ナリ

### 入京

幸太夫初アミシ一ツカニ附シヨリ我國ノ度  
ヲ以テ海上ヲ四百里ヲ越テ加謨沙斯村ニ至ル  
今ガニサツカ伝又ガムサツト山ノ七十里ヲ  
出ト云皆ガムシヤ一ツカナリ山川ノ七十里ヲ  
経テチギリニ至リ又海ニ浮ミ八百里ニ至テオ  
ホ一ツカニ至リ是我夜國ト稱スル所ニ氷窟ニ

# 朱書

予四百八十六里ヲ游<sup>ツカ</sup>テイルコノツカニ至リ  
 是ヨリ陸行五子八百二十三里ニシテ彼國ノ王  
 都<sup>ヘ</sup>伯德<sup>ハス</sup>琉<sup>ボ</sup>爾<sup>ル</sup>觚<sup>ハ</sup>ニ至リ此ニ至テ已ニ萬一子ハ  
 百九十二里ナリ終ニ女主ニ見テ親ク歸國ヲ願  
 エルガレテ又返リテ「オホノツカニ至リ爰ニ於  
 テ藏シテ我<sup>レ</sup>ヲモロニ至リ着爰ヲ得彼ノ國ノ小  
 船<sup>ヲ</sup>ニ乗<sup>リ</sup>ニ「オホノツカヨリ」ヲモロマテ元一  
 千九百ハ十里程ナル由ヲ告<sup>ス</sup>如斯經歷セシ間海  
 島邊鄙ヨリ南都ヲカケ諸列縣村岳藩鎮<sup>ノ</sup>エノ所  
 ト由モ總テ閑塞障塍集<sup>數</sup>傲備<sup>數</sup>倉糧ノ數ヲ見ス

## 飲酒

凡冬時庶士共ニ在ニ過飲スルヲ務トス是寒冷  
 甚シテ他ノ業ナシ難ケレハニ國人酒ヲ嗜サル  
 者ナシ飲燕殊ニ醉シメサレハ歸<sup>帰</sup>サス置酒盛ナ  
 リト雖モ下物ハ乾物肉或ハ塩<sup>塩</sup>糟<sup>糟</sup>杯ニテ漬タル  
 モノヲ用エアヘ物ヲ作り饈ヲ食スル等ノ爰ヲ  
 不見卵ヲ煎テ未タカタマラ又程成ヲ炙ヲ斬ニ  
 懸テ三年程乾シ堅リ成タルヲ薄切タルト此ニ  
 物ヲ一先ニ出ス爰ナリ

## 膳具

膳貝我 國ニ比スレハむ者タル風ナリ蓋皿ノ  
類數多取出ス変ナシ坐久クニテ穢ル変アリハ  
洗清メテ用幾度モ如斯酒ハ壺ニ盛テ数ツモ卓  
上ニ並ヘ置名其名ヲ記ス客心ニ應シテ亦シキ  
俛ニ酌テ飲侍者婢杯ノ類ニ酌スル変ナシ蓋ハ  
コップヲ用獻酬ホノ変ナシ

### 燕飲

行ハ右ヲ貴フ燕飲或ハ不意ニ相集ル変有時ハ  
士ト商ト雜リテモ敢テ嫌ハス只士ハ賤ト爲モ  
右ニ立商ハ富ト雖モ尤ニ立ヲ以テ禮トシ椅子

ニヨルヲ安處トス我 國ノ膝ヲ屈シテ座スル  
ヲ見テハ驚テ堪ヘカラストテ恐ルヨシ

### 服色

色ハ白ヲ貴フ服ハ右程胎ヲ露ス変多ヲ尊トス  
王ハ乳上ニ至ル庶人ハ腕ノミヲ顯ハス貴賤ノ  
等其間ニアリ鄙人ハ白ヲ着変能ハス王ハ純白  
貴賤其間ニ有 貴顯ノ人白ヲ着ト雖モ着等ア  
リテ純ナル変能ハス但粗衣白布ヲ用貴賤通用  
ス

### 服飾



# 朱書

庶人繚ヲ用女主宗廟ヲ拜ヌスル時ノ服ハツリ  
 ガルト云ハル皮襦ニシタルヲ服ス是ハ別儀ノツ  
 ウスルハ我 國ニテ云ハバ粟鼠ノ如キ物ニ真  
 黑色ナリ彼國ニテ到テ貴ム又小獸マリニシテ  
 シカモ多カラスカセムシヤカチキリアクラン  
 スコ又 日本續キホリシヨニツカ等ノ所ニア  
 リ野作地ノ内ニモ稀ニ有テ王ノ義服ニ用ルヲ  
 以テ此獸ノ状ヲ銀幣ニ鑄タリ又西鷲ノ形ヲ  
 用此紋天子ノ服御ニ限ル変ナリ此方ニテ兼桐  
 ヲ併ル杯ノ所都テ御用トモ云可キ変ニハ必ス

ガリヤウノ章ノ所タル旗杯建変ナリ此等猶山  
 龍犬蟲<sup>ス</sup>杯ノ如シ衣服制有然レ氏新様ヲ造ル変  
 甚禁セス分ケテ笠ノ類元ニ衣服モ英<sup>イザリ</sup>利<sup>リ</sup>持<sup>チ</sup>希  
 テ賣系新制ニ佳ナルモノ有レハ拳國忽故ヲス  
 テ是ヲノ<sup>ノ</sup>イト云緒御杯云ヘキ人ノ皆未龍ノ  
 ノ新様ヲ服シテ朝スカレハ具制ナキガ如シ

## 布帛

布帛ハ羅紗<sup>ス</sup>天鵲<sup>テ</sup>繡<sup>ウ</sup>ゴロフクレニ華布<sup>サ</sup>絹<sup>ウ</sup>木綿<sup>ウ</sup>繡  
 ハ咲<sup>エ</sup>咲<sup>レ</sup>咲<sup>ス</sup>ヨリ来ルモノ庭<sup>ニ</sup>穴<sup>ニ</sup>浣<sup>ス</sup>布アリ<sup>ニ</sup>フ<sup>ラ</sup>ニツ  
 ースヨリ来ルハヨシ莫<sup>モ</sup>危<sup>キ</sup>アリ<sup>ニ</sup>英<sup>イ</sup>吉<sup>キ</sup>利<sup>リ</sup>布<sup>ウ</sup>是ハ白<sup>ク</sup>リ

# 朱書

シテ極薄故カラ有り哉 國ニテ言ハ彼抄ノ到  
テ精好ナル物ニ高貴ノ婦女表教ニス見変ナル  
モノナリ

## 姓名

人ノ名各ニツ有<sup>レ</sup>名ト字ト言ハシモノ、ヨシギ  
リロカネアタム<sup>レ</sup>キリロイテラツクスマニト云  
アタム<sup>レ</sup>彼が実名ニ<sup>レ</sup>キリロウイ子ハ父ノ名ナリ  
ラツクスマニ<sup>レ</sup>姓ナリ姓ヲアトヘ<sup>レ</sup>所ケ其後ヘ官  
ヲ<sup>任</sup>所ケアタムニ子アラハ名ハ何トツク氏果ア  
タムウイ子<sup>ヲ</sup>ツクスマニト呼ヘシ<sup>レ</sup>ラツクスマニ<sup>レ</sup>

ハ彼カ先祖ヨリ子孫ニ到ルマテ是後ヘ所ルモ  
ノニ同輩ニ上ハ実名ヲ呼相尊ノ義ナリ貴人ノ  
卑者ヲ呼ニハ姓ヲ云下士ノ類ノ祖衣我 國ノ  
秩父キヌニ類スル<sup>レ</sup>絹ヲ用<sup>レ</sup>オトマキヤト<sup>レ</sup>ツコ  
イスヨリ来ル<sup>レ</sup>災ト雖モ英吉利又外國ヨリ取来  
ル物ノ如シ庶人ハ朝鮮ヨリ来ル<sup>レ</sup>タ<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>伝<sup>レ</sup>綿布<sup>ニ</sup>

## 皮服

シ<sup>レ</sup>ビ<sup>レ</sup>リ<sup>レ</sup>ガ<sup>レ</sup>ホ<sup>レ</sup>ー<sup>レ</sup>ツ<sup>レ</sup>カ<sup>レ</sup>杯<sup>レ</sup>ハ<sup>レ</sup>別<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>寒<sup>レ</sup>モ<sup>レ</sup>出<sup>レ</sup>シ<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>モ<sup>レ</sup>皆<sup>レ</sup>狐  
皮ヲ被サレハ堪ス狐尾ヲハ襟卷ニシ面皮ハコ  
ハクシテ破レカハ故當ニツ、マス四足ノ皮ヲ

# 朱書

ハ股引トス都テ皮背ヲ貴フ富貴人服テ貧賤者  
ハ服腸ヲ服又女モ是服値モ賤シ

異俗

莫斯科窪<sup>モスコワ</sup>伯德<sup>ハハル</sup>勃<sup>ハハル</sup>尔<sup>ハハル</sup>觚<sup>ハハル</sup>ノ近邊ニハタ、リニハ  
異俗ノ氏アリテ棲ム元ヨリ國人ト齒セス婚姻  
ヲ能ハス邑落ヲ別ニス譬ハ唐山ニ蒙古回々杯  
ノ住居シ我 國ノ扇兒杯ノ起ニ類ス笑シ凡彼  
カ子女ヲ奴婢トナスヲ猶紳家ト雖氏モ嫌ハス  
父、リニ男女ノ衣服モ餘程異ナリ女ハ頸上ニ  
貳尺斗リノ物ヲ戴ク髻モ夫ニ習ヒ高ク能上ル

ヨシイルコーツカニハブラツケトニクースハ  
異俗住ム又俄羅斯<sup>ロシア</sup>ト齒セス邑落モ別ニ家ヲ六  
角ニ造リ子ギリニハ子エホコハ異俗住ム是又  
邑落別ニ子民ト襟唇セス加薩沙<sup>カササ</sup>斯<sup>ス</sup>科<sup>カ</sup>ニハカム  
シヤタハ異俗アリ

ヤコーツカニハヤコ<sup>ヤコ</sup>ハ異俗有リコトカム  
シヤダハ目精モ髪モ黒シヤコ<sup>ヤコ</sup>トハ牛蓋ヲ以  
テ屋壁ヲ塗リ馬ヲ牧息スルヲ勤ム家ニ有時ハ  
多縣<sup>タケン</sup>賸<sup>トシ</sup>男女トモ前ノ所ヲ皮ニテ掩フ又馬乳ヲ  
食ム既ニ邊鄙ニテハ狐兔熊杯々歸ナキモノヲ

# 朱書

モ食フ前ノ「ブラツテ」トニダリスチエホロヤム  
 シヤダヤコトトノ類ハ近クスル野作ノ如シ徒  
 来ノ異俗<sup>第六</sup>「ハ」ヘ只「ベ」テ「ル」ノ「タ」リ「ント」チエ  
 ツトノ長ハ「ポー」コウニカノ辭ヲ云此者其麦粉  
 ニテ我國ノ濕紙ヲ折テ食「ポー」ト「ル」マス「ロ」伝「チ」  
 ギリカムシヤツカニテハ麩ノ皮ヲ乾シ窓ヲ張  
 硝子<sup>子</sup>之<sup>子</sup>故<sup>子</sup>然<sup>子</sup>なり此邊ノ家ノ造リ様皆ヲ穿  
 其内ヨリ家ヲ造リ出しニ階ニスレト穴中ト外  
 ト上下手分位ニナル様ニ造ル<sup>子</sup>此家ハ六階  
 角ニハアラス

## 幼術

又「ヤ」ト幼術ヲナス者有リ「ヤ」コトツカニ到ラ  
 ントスル三日<sup>聖</sup>前ニ大川アリ氷合スレハ涉モ論  
 ナシ氷解シハ又舟ヲ用テ渡ル可シ其時氷初テ  
 解散碎タル氷流シ来テ馬ヲ繫テ以テ渡ル可ラ  
 ス三日マテ滯主家ノ女妃<sup>子</sup>喧シ幸太夫等恠テ  
 婢ニ問ヒシカハ答テ是ナシ主人幼ヲ學ニ都テ  
 幼ヲ學フエノ家必此心違アリ不好ナリト云ヒ  
 シトソ又此處ノ道深霧深雪皆方角ヲ失フ「ヤ」コ  
 トト常ニ途ニ墜ス者ナレトモ迷ハカル度能ハ

# 朱書

ス故ニ道ヲ標カタハニ絶壁予仞ノ上ノ高松ノ  
枝ニ馬皮ヲ懸テ奔走スルノ形ノ如クス是梯ノ  
及所ニ非ス知ノスモノ、由ニ此知只ヤカト  
ニ限ル変ニテ他ノ異俗并本國人等ノテス変ハ  
絶テ樂キ変トソ

## 小島

アミシツカハ幸太夫等カ初テ着ニ臨テリ長ヒ  
里程横三里斗リノ小島ナリ山ナシ人集リテ穴  
居ス上ニ草ヲ嘗テ屋根トスカレトモ夫婦アリ  
月変アル女子ハ他ノ所ニ移ル而合ノ根ヲツキ

水ニ和シテ吞又雁ノ卵ヲ取テ食フ又水鳥ヲ取  
巢ヲ取り石ヲ礪テ矢ノ根トシ木ヲタメテ矢柄  
トス矢売本ヲ造ルニ七日八日ヲ費ス是ヲ根ヲ  
ハメテ飛鳥ニ投又皮ヲ剥テ舟トナシ是ニ乗テ  
早キ変飛鳥ニ及フ男セナニ人女而人餘アリキ  
目髪黒シ魯西亞人タマミハ来ル具島ニ有具  
名ハトヨノ伝木ハ流レ寄ル物ヲ拾テ薪トス草  
ナトノ杭タルヲ揉テ敷上ニ雄黄ヲ多置石ト石  
トヲ打テ火ヲ出シ焼火ヲウツタカ伝打変ヲア  
カチヤカ伝雁ハ岡ノ巖杯ニ卵ヲ産女子マ、前

# 朱書

ヲ知リテ取其邊小島を多し雄黄山ノ島アリ常  
ニ犬アリ其島ニ行テハ雄黄ヲ取り來天主教モ  
行ハレス

## 燒山

加護沙都科<sup>カゴサドカ</sup>ニハ燒山アリ大ナル山之國中ノ庶  
人ノ類是ヲ知テ寒冷ノ時節ハ遠方ヨリ集リ來  
ル此時獵スルを易し

## 雪舟

オホウツカノ郡官<sup>グロウ</sup>ニウエチカ宅ニ在  
時深雪ノ貳犬ニ舟ヲ牽セ八日々ニ乘テ出用有

ニアラス身ヲ労働スルカ為ナリ身ヲ多ク養サ  
ケ奥ヲ乾テ貯食シムを<sup>カ</sup>シムシヤツカヘトルオ  
ハテキリホリシヨリツカノ邊ニテモ是アリ朝  
飯過シハ僕ヲ呼テソバカ<sup>バカ</sup>サツポーレイ<sup>レイ</sup>ハ  
僕支度シ畢テボテヨント云<sup>出</sup>コトアリ犬三四又  
五六ニシテ人三四人乗タルヲ牽至テ早ニ高  
低オノ操ヒテ上ルを乘リ馴<sup>ナ</sup>ガル者ハ稍モスレハ  
落<sup>フ</sup>ボカ<sup>カ</sup>ミト云ハ在折<sup>セ</sup>シボクミト云ハ右旋  
ス毎朝犬モ出タガルモノニ幸太夫<sup>タフ</sup>カタクホカ  
ミト云ヒテハ聞ガハヨシ



# 朱書

## 質問

キリシハ彼國ニテモ行儀正シク威嚴ナル所モ有男之十七國度ニ埒通シタルヨシ有時幸太夫等四人ニ向ヒテ汝カ國夏月極炎暑ニ盆水如何トツ莊藏ト云者手ヲ差出しテ引マネテコト見セケレハ「キリシ大ニ怒リ夫ハ西南國ノ度ナリ日本ハ三十度ヨリ四十度マテノ國ナリ手ヲ差入テ程ヨキ位ノ國度ナル可シ汝必ス奥ノ理ヲ以テ人ヲ欺ク汝我カ前ニ出ル度ナカレトテ決テ逢ズ幸太夫我國ニ歸ラントスル前漸コシ

ラヘテ清タリ此風ノ度我 國ニ絶テナキ度ニ

## 學說

幸太夫彼國ノ識文字ヲ習フ小子輩喜ビテ教ヘ候由皆其父ニ請フ度教「キリシ」ガ小女十歳ハカリナリシガ「ベービセデア」屢言ヒテ見ヨ必得ル所アラント言ヒシカバ「キリシ」ニ侍坐スル時シキリニ是ヲ誦シタレトモ未タ得ル度アラス「キリシ」不喜顧テ誰ニ習ヒテ斯ル度ヲ云ヤト問令愛教ラル、ト答シカバ「キリシ」作色シテ起テ小女ヲ杖セントス小女早ク階ヲ下リ走り遁ル「キ

# 朱書

リ口猶進メクリハリ「べー」及「び」テア及ズタ  
 則「ビズ」ハ女陰ノ変ナリ幸太夫當時音韻及切  
 ニクラシ後思ヘバ捧腹ニ堪タリトイヘリ都テ  
 彼國字寫シテ萬國ノ語ヲ寫ス或ハ類字ヲ及切  
 シテ一音ヲ得又類字ヲ轉テ一字ヲ作ル我 國  
 ハ唐土ノ字ノ字誤スル鴉ハ一字ニシテ足ルト  
 雖モ鶴ハ二字鴉ハ三字鷄ハ四字ノ類ナルニ彼  
 ハ杜鵑モ孔雀モ一字ニ作ル是ニ因テ梵語僧ノ  
 唐音ニ委シキ変ニ寫ナリ我 國竹字タケト讀  
 日ノ字ニテト讀ヒト讀弼日ハツイタ子晦日ツ

ゴモリト讀ト聞テ疑フイカニ喻セトモ會得ス  
 ルモノナシ況ヤ假借圈發是ニ和讀ヲ添一字ニ  
 シテ類ナラカヌルモノヲ聞ハ何ト云ハニ

## 鳥獸

幸太夫彼國ニ在テ見タルモノ鳥ニテハ鷺鳥在  
 燕鷺都テ小鳥ヲ「ビ」チ「イ」ツ「伝」獸ハ「ア」サラシ「ク」エ  
 リツバ獺席俄羅斯ソウボウ。アト云熊メデ宛ウ  
 シカン狐リシツ様俄羅斯オデヘヤニ。イル鼠ヲ  
 ニ度程見タリ皆我 國ニテハツカ鼠ト云小鼠  
 ニ「ギ」リ「イ」スト云猫ハナシ幸太夫カ鼯ニ養ヒ置

し猫ヲ加謨沙都科ニテ人々争ヒタリ舟具杯ノ  
内ニテ争フヲ詰フカレトモ誰ニ與ヘテヨキヤ  
知レカレハ只黙シテ居シガ困リシトフ

### 奥賣

湖ハ新多シイルコイツカニ屋日ノ夕ニハ女子  
賣物ヲ頭上ニ戴キ未卯獸乳ナトハ女ノミ賣ハ  
卵ヲ「ヤイツ」ハ「ヤイツ」トハ長リ引テ呼ナ  
タ「ト」喚ニ字共ニ義ナリ賣物ナリト人ニ示  
聲ノミ「奥」ヲ「レ」ベト云大湖ノ側故「レ」ベテ多  
ク賣ル

### 川奥

「ヤ」コイツカ「イル」コイツカノ川ニニ三尺斗リノ  
奥多クアリ人敢テ取ル変ナシ形状刀劔ヲ飾ル  
數ニ似タリ則數ナルベシト云

### 海獸

「コ」ヒ子ト云モノハ獸仲ナリ多クニ尺位アリ  
角ノ形ナリ  如斯「ヤ」コイツカノ北隅ヨ  
リ出尤多シ其内ニ通テ尾モ襠シリ夥數馬ニ所  
テ詭方ニ送ル細ユニシテ象牙ニ髣髴ス鹿角ハ  
加謨沙都科山中多クシテ行路ヲ妨ク人弄テ拾

# 朱書

ハス

蕨木

蕨木ハ「ト」ロツカ「ト」ロツチクノ國々ヨリ来ル

大湖

以爾格都加湖ハ長カ我國ノ道ニテ八百里アリ  
リトソ王都ヘ登ル道ニハ湖百里計ノ温泉有  
是ニ滋スルト淋クシ幸太夫ハ此湖ヲ舟ニ乘タ  
リ此時「ギリ」幸太夫ヲ顧テ笑テ此湖ヤツボス  
コ「ヲ」泛ヘシト言ヒシ

器物

初幸太夫伊勢ヲ出シ時大垣侯ノ奥方ヤラニ雛  
人形ノハタハ長持ヲ受取テ舟ニ積入タリ彼國  
ニ到シマテ此櫃恙カナシ國人見テ珍トス小椀  
ナトハ酒罍ニ用曜ノ紋アル罍ヲ家々ニ寶藏ス  
日本ノ漆器ヲハ悉ク貢養スル度ナリ

坐問

「ギリ」幸太夫談リテ汝カ生國伊勢ノ大廟ニ未  
社類百アリト評ナリヤ誠ニ然ル中ニ答ケレハ  
何故尊崇スル所ノ斯多ヤ又京ノ三十三間堂ニ  
仙ノ數三万三千三百アルヨシ然ルヤ幸太夫見

# 朱書

スト雖モ我 國然云変ナリト答ヘシカハ又宗  
明八宗有ト聞何々ト云ヤト問禪天竺一向真言  
等ハ聞タリイカニモ八宗ナレトモ審ニハ記セ  
スト答シ汝カ國如斯尊信拜禮スヘキモノ多シ  
何ヲ以テ人心一ナラニ國ヲ理スルノ妨ニト訕  
シ

## 問答

又「キリ」汝カ國死刑アリ又自ラ又スル者有ト  
聞如何ト云實ニ有シト答フ又答罪ヲ犯シソノ  
身自又シテ公法ソレニテ濟ヤト問フ身已ニ死

テハナシ公法ト雖モアヅカル所ナキカ故ニ濟  
変ナリト答シカハ此身人々父母ニ禀ク父母ア  
リト雖モ子ヲ殺ス変能ハサルハ上天子ニ在ス  
天子下民ヲ殺ス変不能人氏ハ天子ノモノニア  
ラス人命ヲ天主ニ禀天主ノモノニシテ身自今  
殺シテ可ナラニヤ自殺シテ犯罪濟ル変モノト  
セハイタラサル所ナカル可シ汝カ國ニ不限自  
又テイサキヨシトスル國アリ命ヲ知サル者ニ  
ト訕シ彼國ニテ「キリ」其外ノ者ト交シ問此ニ  
変ノ外我 國ヲ桓トスル変ヲ聞カルヨシ又汝

# 朱書

カ生國セウノイシヤクシノ間路ヨリ尊高キ河アリ  
 覚タルカト問事太夫覚サリケレハ不知ト答  
 シカバ「ギリ」笑テ居タリ歸國ノ王後見レバ誠  
 ニ有リト説シ是オノ諒監和蘭人ノ著シタル長  
 崎ヨリ江戸マテノ記行ノ「ゲ」フルト云書ヨリ  
 見レ所ナル可シ彼國ニテ桂川甫周中川淳庵カ  
 吏ヲシリタル由シ何ニ因テシリタル成ベシト  
 問シニ事太夫答テ以前和蘭甲比丹江戸へ来リ  
 病シ時甫周カ桑ヲ得テ快腹シタル吏有リ此甲  
 比丹蘭人ニアラス「ス」エツノ人ナリキ在蘭人ニ

テモ伯德琉勃ベルル觚グへ往来スレ共「ス」エツハ猶シ  
 タシキ故二人カ名ヲ唱タリシ彼ノ甲比丹ハ江  
 戸へテ見ントテ亮度来リシニ淳庵モ彼ト對談  
 ノ時面由キ吏共言ヒタリト見エ蘭人々々ト心  
 得居レト何國ノ人来ランモ知リ難シ殊ニ蘭人  
 ハ日本ノ通辭ヲ制御シ其意ニ應セカハ通辭  
 ニハアラヌ國ノ辭ヲ用テ通辭ニ困ラスル吏有  
 リ又彼ヨリ此方ノ通辭へ伯德琉ベトルナト云辭位ノ  
 様ナルモノヲ授ハ吏ヲス通辭トモハ是ヲ「ヤ」ト  
 以格ナト云吏ノヨシ是他ナシ利ヲ制スルニ蘭



# 朱書

人ハ心ユルカシヌ者成可シ

## 難問

「キリ」又或時月<sup>中</sup>ニ影ノ如キモノアリ 日本  
ニテハ何ト云ヤト問奉太夫アレハ免カネヲ春  
ト申ト云「キリ」夫ハ書物ニテモアリヤ可笑キ  
変ナリ伝奉太夫何ノ書ニ有ヤ未穿鑿セスト雖  
モ拳國一定ノ説ノヨシヲ言ヒケレバ「キリ」笑  
テアレハ地球ノ影ノ移ルナリヤツボニモ「ア  
ノ中ニ在ト言ヒキ

## 狐惑

狐狸ノ人ヲ惑シ妖ヲナスト死者ノ思ヒト成テ  
冥ヲ現ス等ノ変ヲ聞テ人々恠々人ノ死時竟ノ  
トブト云変ハ稀ニ見ルモノアリトゾ只「キリ」  
狐狸ノ妖ノ変ハ聞及ヒタリサイブカト云シ  
化カス何変ヲ「ウエ」リト云ス「ウエ」ヤトハ交  
又化スト云変ナリ

## 殺死

彼國使ヲ見シハ人ヲ殺シタル変聞戦ノ外數々  
見ユ又殺サレタル変モ又有リ彼國ニテ中興ノ  
英主層ノ窓ヨリ尸ヲ河水ニ投シツレヨリ出テ

# 朱書

四海萬國ノ外周遊シ歸ル其餘功勳絶倫ナルヲ  
以テ神明ノ如リ稱ス是今ニ彼ノ國人ハ口碑ニ  
傳フルヨシ幸太夫モ是ヲ以テ「キリ」ニ謝リハ  
必説ヲ作りテ答フルナル可シ

## 發帙

幸太夫彼國ヨリ暇ヲ給ヒシ時脚疾アリキ「ア」ダ  
「ハ」使ニ命ヲモ「タ」レハ「キ」リ「ロ」事ヲ道ノ更ヲ謀  
ルヨキ序ナレハ湖ニ浮テ滿洲ニ出北京ヲ見テ  
行ベシト云「ア」タ「ハ」モ幸太夫モ望所ナリシカ「キ」  
リ「ロ」ガ妻ヲ「カ」テリカ「ハ」甘カシキ女ニテ碩子ノ

更ナトモ「キ」リ「ロ」ハ抱サル気風ナレト自傳籍ヲ  
取りテ會計ヲモ知リテ差圖スル程ノモノナル  
カ幸太夫カ脚疾有ルニ道ヲ取ノ迂回ナルヲ以  
テ「ハ」テ「イ」ヒテ海路ニ從タリ

## 尺八

「オ」ホ「ー」ツカノ縣官「イ」ワン「フ」ヨウ「ド」ロウエ「チ」ク  
リニニ尺八ヲ教タリシ彼國ニナキモノナレハ  
面白カリタリ。レニボ相應ニ出来タリシ故ニ尺  
八ヲ遣リテ来シ

## 賣錠

# 朱書

幸太夫カ「ガホーツカ」ヨリ歸ラントセシ時初ニ  
カシコニ来シ暇ノ鏡売ツアリ「イワシ」幸太夫ニ  
向鏡携テ歸ルベカラス官ニ賣ラハ我ヨリ計ヒ  
ヤラント云幸太夫諒シケレハ然ラハ母ニ云可  
シ箇様ノ度我ヨリ云ヒ出シ難シト云渠ニ此度  
ヲ詔リテ頼ミシカバアルタ、燕飲ノ時母彼ノ鏡  
ノ度ヲ云ヒ官ニ上リ相應ノ値ヲ給リサバ幸太  
夫等行路ノ用意トモ成ルナラント云ヒ出シケ  
リ「イワシ」是ヲ「フナリ」ニ諫ル「フナリ」ハ金  
財ヲ司ル難ニス  
ル色アリキ是ヨリ如何相談セシヤ幸太夫等知

サリシカ明日ハ覽テ解ト云日ニ到リ官ヨリ幸  
太夫ヲ呼びニ来リ其値トテ銀五百枚ヲ出シ與  
ヘケリ是太ニ過當ナリ「イワシ」カ志シナリキ

## 歸着

「ガホーツカ」ヲ九月十三日ニ出十月十七日野作  
地ノ「ネモ」ニ着リ我 國ノ九月三日ナリ前夜  
ニ到リ櫓ヲ取トモ幸太夫ニ風色ヲ望シメケリ  
天殊ニ晴テ星斗列リ渺々トシテ山ナトハ見ヘ  
ヌナリ何ノ憂リタル度モ覺ヘスト云ヒシカハ  
覽手ヲ打テ笑フ已カ故國ヲ知ラズヤ明日カ到

# 朱書

ル山見ヘタリ如何ト問猶辨タル度ナケレハ又  
不知ト答シ果シテ「ネモ」ニ入此所ヘ乗リシ度  
有ヤト問ヒシカハ乗タル度無シト雖モ知ト云  
其内「オホーツカ」ノ生シニテ「ガハリ」ニト云舟乗  
六十餘ノ者ナリシカ「アツケ」ヘ来シ時少時来  
シ時ノ償アリトテ狐皮ヲ出シテ償シ度ハ有キ

## 海民

「オホーツカ」加謔沙斯科ナトノ海濱ニハ「ブルム  
カイ」伝舟乗アリ是ハ「カム」シヤダヤ「コ」ノ類ニ  
ハ「アラズ」乎民ニテモ不良ナル者共舟乗ル度ニ

習フタル者共都テ遠海邊島ノ所ヘ容易ニ行ハ  
皆此モノヲ遣ハナリ勿論夫レヨリ上ニ商人有  
テ仕入物訛物ナトテ請負ヨキ買ヲ取箇様ノ無  
類命知ラズノ輩ヲ雇テ使フニ唐舟ニテハ津列  
我 國ノ舟乗リハ皆此類ニテアレド又是程ニ  
アラヌニ似タリ此等ハ先々ニテモヨカラヌ振  
廻ラスル度ノヨシ

## 三板

「アダム」オ松前ニ入シ取テシマ三艘出シタリ売  
ハケヤ木ニハ「グス」木ノ船ナリ「アダム」早ク見テ

# 朱書

ア、カンハラ<sup>本々</sup>セラウトト稱ス賞嘆是のアシパ  
シハ棒<sup>ビロウ</sup>ハ木ナリ又大阪邊ノ船<sup>フナ</sup>アタムカ  
船トスリ遠<sup>トウ</sup>フテ入りシモ又棒<sup>ビロウ</sup>ナリシカハ益  
賞美シケリ棒<sup>ビロウ</sup>木ハ寔國ナシハ元来ナシ見タハ  
変モ初ナレト自方ハ聞キタルモノナリ

## 望問

案前ニ上リテ「アダム」此所ニ「エナラウ」有ト云「エ  
ナラウ」ハ彼國第一ヨリ第四マテノ島稱ナリ然  
ハ尺「エナラウ」ト云ハ我諸侯ト云カ如シト見エ  
松前カ此所ニ有トハ兼テ聞ヌ変ハ有マシ来見

ニ及ニテ始テ信然セシ趣ニ又松前ト野作ト續  
キタルヲ見テ其國ニ同シ地圖ニ違ヒタリ歸ラ  
ハ改正スベシト云シトゾ又松前ノ義ヲ殊ノ外  
ニ稱セシ其宿セシナトモ大家ナリトテ、ホメシ  
由シ只暑熱ニ到リテ堪ヘズ流所ニ入テ頭上ヨ  
リ水ヲ濺キ大息シテノミ展タリ此時「アダム」等  
東都ニ来ラシ変ヲ願事シキリナリシカハ幸太  
夫等此所ニテ斯炎熱ニ困シ如何シテ東都ニ堪  
ニヤト云シカバ始テ然リトシ此ヨリ猶度數四  
五度ヲ隔ツ具覽知ル可シ<sup>度</sup>數ヲ以テ思ヒヤリシ

# 朱書

ヨリハ過タリト云ヒシトゾ

## 悪口

此時奥列大名固メノ船ヲ多ク出シタルヲ見テ  
舟子トモ悪口シケリ 日本ニテハ如何ニ我輩  
ヲ恐ルニヤ我國ニテハ「アラバカ」未テ伯徳琉勃  
ルノ商人ニ大銃ヲ打懸タリシ取モ天子ヨリハ  
一牽ヲ出サス一使ヲ遣ラス有シトテ日々ニ罵  
リタリシカ言説不通ハスム変ナリキ「アタム」ハ  
悪聲ハ出サ、リシカ愚ナル振舞カナト屢々云  
ヒシ

## 名竹

竹ハ彼國ニナシ「アモ」ト云得シハ珍藏ス女主  
ノ竹杖英吉利持来テ賣値ヲ全トソ本末聊モ太  
ト細ミナキ竹ナルヨシ

## 薬舗

薬ヲ「チカ」ルス「フ」伝薬舗ヲ「ア」ク「チ」ユツカイ「伝」薬  
物ハ更ニテ賣「ア」ビテユカリト云

## 麦食

國中未ナキ故米飯ヲ炊キテ食スト云変ナシ牛  
鵝鶏ヲ澤山ニ畜立テ是ガ則 日本ノ米倉ナリ



# 朱書

米モ田ニ作りテ跡ノ絶ヌ様ニス是モ同変ニテ  
 アトノ絶ヌ様ニ畜フヤシテ國中數十萬ノ人ヲ  
 養フ変察ス可シ去レ共此肉計ニアラス大麦ヲ  
 作りテ諸山ノ流水ノ所々ニ水碓ヲ作りテ粉ニ  
 ハタキ囊ニ入テ 日本ノ米ヲ運送スルカ如シ  
 此粉ヲ得テ猪ノ膏ニテコテテ四寸位ノ丸ニ  
 厚サ六七分位ノ餛トヤシテ大風爐ニノ如キ物  
 ニ入テ上下共ニ狐色ニ焼テ晁物ニ貯ヲ置キ食  
 ス是モ冬ハコ子テ一タ置テ焼クニ夏朝コ子テ  
 晩ニ焼位ノ変ニ冬月ハ六七日目ニ家内取懸テ

作ル夏月ハ四日目位ニ作ルヨシ是ヲ作ルニハ  
 甚タ上手下手又肥ノ大加減至極柔ラカニ。フツ  
 クリト出来ルアリ又割リ出来ル変アリ則 日  
 本ニテモ飯ヲ炊クニ工拙有ガ如シ此國ノ風ト  
 シテ早朝ニハホウ煮シ美類ヲ食シ四時過ニ右ノ物  
 ニ右ノ肉類ヲ添テ食ス又九ツ過ハツ過晩ト組  
 合五度ノ食ナリ然レバ 日本ノ如ク大勢掛リ  
 テ煮焼ニモアラス 日本ノ在ニテ食ス小中飯  
 ト云位ノ変ナリ 日本ノ如ク朝ヨリ晩マテ食  
 ヒ物ニ懸リ居ルト云ニハアラス冬月ハ大風爐

# 朱書

アリテ大絶ス冷タル物ハ此大風櫃ノ内ニ壺アリテ壺ノ中ニ入シテ鳥渡暖テ食スノ類ナリ  
日本ニテニ三日モ續テ雪降レハ引込テ物更ナカスシテ只食物ヲモ靜ニ暖テ食シ他ヘモ出ヤウトモ思ハスシテ日ヲ送ルノ心ナリトゾ

## 米飯

キリ口窠前ニ来シ時ハ皆 日本ノ食物ニ食物ヲ取揃テ持出ス時ハ此方ノ膳ヨリ取りテ彼カ卓上ニ取上テ衆リ食スナリ奥ハ頸尾全テ悦ニテ食シ切肉ハアマリ好ミ悦ブ色カシ箸ハ 日

本ノ如キニアラスヤ如斯ノ鉢ヲニテ休リヤノ字ノ形ノ如シ是ニテ肉ヲ突カケテ食ス此人衆ノ中ニテモ 日本ノ箸ヲ持習ヒテ 日本ノ箸ニテ食ルモアリ船主ノ「アダム杯」ハ持習ヒ出来ズシテ始終トモニ彼國ノ箸ニテ食スト云正月ニ入テ 日本ノ式ニ隨テ饒煮ヲ共ヘテ食ハシムレハ始テ食シ悦モアリ。嫌フモ有リ澤山食シテツカヘルモ有リ重シトテ不好ニ三度モ與ヘタハヨシ聞傳ヘリ

## 一節

# 朱書

松前に来りし船中ニハ雞多ク鵝モアリ鹿ノ如  
クノ獸ニ一角有物ヲ売足載来ルト云此賣未タ  
幸太夫ニ尋ル賣ナシ又狗ヲ売足載来ル背長ク  
耳垂テ足太ク水ニ入テ奥ヲ取ル終日人ニ相狎  
テ人ニ伴フ是ハ舟中同ク伴伴フニ随テ能相狎  
タルナリ

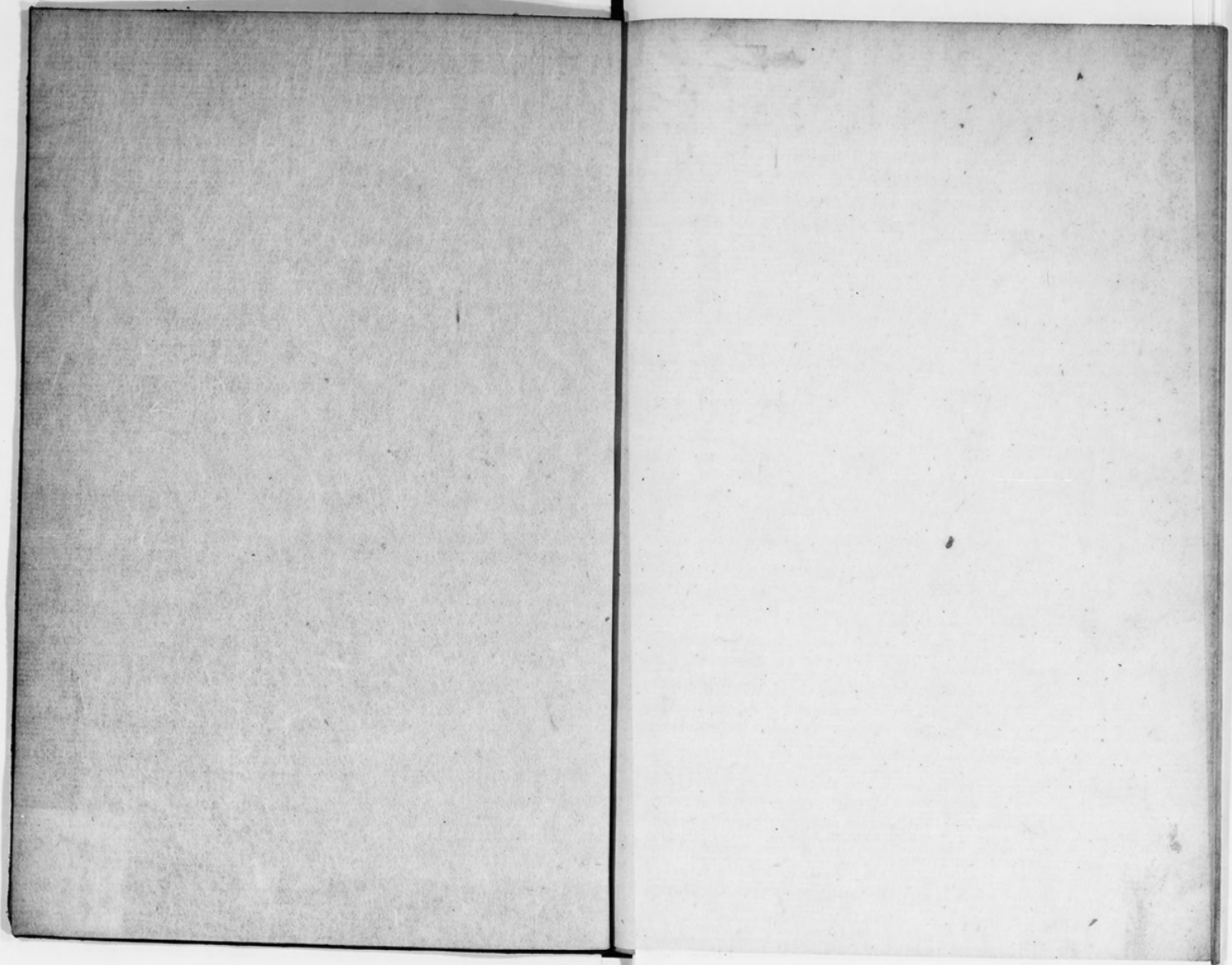
## 盆樹

松前ノ人渠等ガニ目ヲ觀シメニ中ガ為ニ盆樹  
ナト持入テ置ハ見テ花ナト取テヒネクリ見テ  
何ノ悦フ様子ナシ彼ノ都ニテハ日本ノ江戸

ノ如ク樹木ナト植ハ所ナシト云今江戸ノ人ナ  
トモ樹木ノ賣ナトニ悦フ色ナシ其様ナル所ニ  
テ長スレハ其意モ人ニ異テ薄シ此意ノ如クナ  
ル可シ唐山ノ本ノ大學ヲ持出タラハ讀テ聞セ  
テ大ニ驚ク食賣ノ時ナトモ奥州ノホ子杯口ヨ  
リ吐出シテ失禮ナル賣ノミ日本ノ大黒傘ヲ  
売本送りケレハ大ニ悦ビ甚タ巧ミナル賣ナリ  
ト云彼國ニ兩具ナシ兩中ニモ羅紗ニテ露モシ  
ミスアマリ浸シタル時ハ梳拂ノ如キモノニテ  
扱フ時露奈ルト云

俄羅斯異聞卷之二終





八  
分  
十  
月  
入  
松  
文  
印



東京大学経済学部図書館



5509418272